

英語教育

<p>&lt;1 テーマ&gt;</p> <p>「英語でやりとりする力」を伸ばさせる指導法 ・評価法、体制づくりに向けて」</p>
<p>&lt;2 取組方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語コアスクールWGの開催 (生徒の学力向上)</li> <li>・Proficiency Testの実施</li> <li>・TOEFL iBT対策講座の実施</li> <li>・TOEIC対策講座の実施</li> <li>・Empowerment Programの実施</li> <li>・高校生英語プレゼン大会の実施 (教員の指導力向上)</li> <li>・「やりとり」を主眼とした学習活動の実施</li> <li>・「やりとりする力」を育成する教材の開発</li> <li>・検定等対策講座の受講 (高大接続改革)</li> <li>・外部検定を活用する大学入試の情報整理</li> <li>・英語教育改革に取り組む大学等の視察 (成果の検証)</li> <li>・過年度データとの比較及び教材・評価法のマニュアル化 (その他)</li> <li>・オンライン交流の研究</li> <li>・保護者の講座参観</li> </ul>

<3 成果指標と実績>			
成果指標	初期値	H30 目標値	H30 実績 (評価)
①授業への取組 2年 1年	26.1% 32.4%	30.0% 35.0%	32.4% 38.2% (A)
①平日学習時間 2年 1年	1.41h 1.44h	1.50h 1.50h	1.48h 1.27h (C)
①休日学習時間 2年 1年	2.18h 2.20h	2.30h 2.30h	2.37h 1.91h (C)
③授業で力が ついた実感 2年 1年	6.3% 4.5%	8.0% 6.0%	7.39% 5.80% (C)
①英検準1級以上、 TOEFL iBT、IELTS の 受験者数(生徒・教員)	20人	25人	48人 (A)
②海外研修への参加 者数	22人	25人	21人 (C)
②イングリッシュキャンプへ の参加者数	34人	35人	40人 (A)
③①の検定試験で CEFR B2 に到達した 生徒数	2人	4人	5人 (A)
②言語機能重視 Speaking Test 回数/年	1回	2回	2回 (B)
②各種検定講座の開 催回数	0回	1回	1回 (B)
③「英語でやりとり ができる」実感	26.0%	30.0%	80.9% (A)
③CEFR C1 以上の英 語担当教員	2人	3人	3人 (B)

<4 特徴的な取組>

(1) 言語機能別授業内帯活動の計画及び実施

ア (株)アルクのProficiency Testアドバイザー兼採点者による生徒向け講演会・担当者打合せの実施

昨年度の反省で、授業内の言語活動を本格的に開始する前に、生徒に活動の意義や評価基準をしっかりと伝える必要があるという意見が出された。そこで、5月23日(木)の中間試験終了後、1・2年生全員を対象に講演会を実施し、昨年度から取り組んでいる授業内の言語活動及び学期末のProficiency Testに関して、目標・内容・昨年の実績等について解説する場を設けた。Proficiency Testの採点等のアドバイザーである(株)アルク専属トレーナーの尹英海氏を講師として招聘し、本校における取組の理論的裏付けとなっている「言語機能」やProficiency Testの評価基準、昨年度テストの結果分析等に関して話をしていただいた。生徒同士がペアになって、言語機能を意識した会話練習をする等、生徒は実感を伴った理解を深めることができた。



講演会終了後は、1・2年の英語授業担当者と尹講師との打合せの場を設け、令和元年度の実施時期等に関して打合せを行い、年間の流れを確認した。

(ペアワークを交えた分かりやすい講演)

## イ 授業内でのSpeaking帯活動の実施

講演会終了後の5月最終週から、1・2年生の英語の授業内で、言語機能別ワークシートを活用した言語活動を開始した。昨年同様、授業内で5分間のSpeaking活動を毎回実施し、英語による質問・応答及び簡単な自己評価をその場で行っている。今年度は、1年生が「叙述」・「描写」・「理由付け」・「質問」の4つの言語機能に関する活動に取り組み、2年生は「賛否」・「意見を述べる」・「説明する」・「提案」・「是非を論じる」の5つの言語機能に取り組む予定である。

## ウ Proficiency Testの実施

2年生は全クラスで6月にProficiency Testを実施し、パソコン室でヘッドセットを利用し、解答音声ファイルを作成した。後日、音声ファイルを用いて全員分を採点し、成績に組み入れた。1年生は言語活動の実施期間が短かったこともあり、7月に4クラスで実験的にProficiency Testを実施し、部分的に採点した。採点結果に関しては、アルクの尹氏と8月27日（火）にオンライン会議で擦り合わせを行い、採点基準を確認し、教員間で評価にブレが出ないように調整を行った。



(ヘッドセットを利用して音声を録音)

## (2) 「TOEFL iBTスキルアップセミナー at 三島北高校」

海外大学への進学、国内大学から協定先海外大学への留学、日本の大学入学者選抜等に活用されるTOEFL iBTの対策講座を行った。また、教員も講座を受講し、自らの英語力向上、指導力向上を目指した。

【実施日】令和元年8月13日（火）

【講師】TOEFLテスト公認トレーナー 鬼頭和也氏（城西大学 助教）

【参加者】生徒22人（1年生：8人、2年生：14人）、教員3人

※生徒は、英検準2級以上取得者を対象に募集



(講師による問題への取り組み方等の解説)



(ネット接続PCで、実際のiBT対策問題に挑戦)

### 【生徒アンケートより】

- ・TOEFLだけでなく、これからの英語学習に役立つ技や知識を教えてもらえた。
- ・長文の読み方、ライティングやスピーキングのコツが分かり、今後に活かせると思う。
- ・苦手な単語の便利なサイトを教えてもらえてよかった。

## (3) 立命館アジア太平洋大学の外国人留学生との交流

昨年度コアスクール事業で訪問した大分県の立命館アジア太平洋大学との交流事業を行い、主に大学に留学している外国人学生からプレゼンやディベートの内容等に関して意見をもらう機会を設定している。今年度は3回実施する予定で、第1回を10月16日（水）に実施した。当日は、ベトナム人のグエン・フイ・バオさんから、高校生ディベート大会に出場する本校チームの立論部分に関するアドバイスをもらう等、英語で意見を交わす良い機会となった。

## <5 成果と今後の方向性>

授業内での帯活動やProficiency Testの実施、TOEFL対策講座等、本校の特色ある英語教育として定着しつつある事業も出てきた。今後はその成果の分析にも着手し、最終年度のまとめに備える必要がある。また、本年度内にTOEIC講座や留学フェア等、生徒の英語に対する学習意欲を高めることをねらいとした新規事業が控えており、分掌・教科と連携して実施に向けた準備を進めていく予定である。今後とも、様々な事業をとらして、生徒の主体的な学習姿勢の伸長及び学校の特色化に取り組んでいきたい。



1 テーマ

『グローバル人材』の育成  
～英語4技能習得・異文化理解・  
地域貢献を通して～

2 取組方法

- (1) 大学入学共通テストに向けた英語4技能のバランスのとれた指導の工夫
- (2) 英語の家庭学習の習慣化と学習方法の確立による自律的学習者育成
- (3) 英語で発信しようとする態度の育成と発信力の向上に取り組みながら、英語4技能育成、異文化理解促進、地域貢献を通して『グローバル人材』を育成し、魅力ある学校づくりを実現していく。

4 特徴的な取組

(1) 4技能をバランスよく育成する授業改善

昨年度から授業改善アドバイザーとして静岡大学学術院教育学領域教育学部の巨理陽一准教授をお迎えして、教科書を活用した4技能育成を目指し、ワークシート開発、言語活動の研究を進めている。今年度はこれまでに校内研修会を3回実施。10月に校内研究授業、研究協議会を開催。11月に公開研究授業、研究協議会を開催予定している。

(2) ICTを活用した授業の研究と実施

プロジェクタやiPad等を効果的に使い、「英語の4技能育成」と「主体的・対話的で深い学び」を可能にする授業を研究、昨年度11月にICT活用研修会を開催。今年度はデジタルテキストやパワーポイント、アプリなどを活用して授業を実施している。

(3) 異文化理解のための研修・交流と異文化理解発表会

イングリッシュキャンプ（語学研修セミナー）、オーストラリア研修、短期留学、長期留学での異文化理解・交流体験を生徒がパワーポイントなどにまとめ、発表。プレゼンテーション能力の向上を目指すとともに異文化理解の大切さを全校生徒・地域へ発信。

(4) 外部講師による英検講座

昨年度、希望者対象に放課後週1回2時間のTOEIC講座を開講、81人が参加。今年度は、新入試の動向を踏まえ、10月から放課後週1回2時間の英検講座を開講中で94人が参加している。5回、計10時間の講座を開講する。

(5) 英語など他言語を使った地域貢献

国際科の生徒が中心になって、英語やその他の言語を使って、ボランティア活動に参加。異文化理解や地域貢献を体験するとともに、学習への動機付けとしている。昨年度はのべ67人が参加した。

(6) その他の取組

- ・海外とのオンライン交流 … 昨年11月にオーストラリアの高校生とスカイプを利用したオンライン交流を授業で実施。しかし校内回線で安定した通信をするのは難しく、今年度はLINEを使ってスマホをプロジェクトにつなげて行う方法を模索。英語学習への動機付けに役立てるかを研究している。

3 成果指標と実績

成果指標	初期値	目標値	実績（評価）
① 授業への取組 2年・1年	23%・38%	40%・40%	31%・27% (D)
① 平日学習時間 2年・1年	0.9・1.3時間	1.5・2時間	1.7時間・1.2時 (C)
① 休日学習時間 2年・1年	1.2・1.8時間	2・2時間	2.5時間・1.9時間 (B)
③ 授業で力がついた実感 2年・1年	6%・8%	10%・10%	4%・11% (B)
①英語外部試験受験者数	英検321人 TOEIC 40人	英検 330人 TOEIC 50人	英検310人 TOEIC 80人 (A)
②イングリッシュキャンプ参加者数	国際科1年全員	国際科1年全員	国際科1年全員 (A)
②海外研修への参加者数	国際科2年全員	国際科2年全員	国際科35/38人 (A)
③卒業時 英検定2級以上 TOEIC 500点以上	英検 52人 TOEIC 10人	英検 60人 TOEIC 15人	英検 39人 TOEIC 11人 (C)
①英語の家庭学習が確立した1年		60%	34% (C)
①オンラインで交流した生徒数		35人	41人 (A)
①英語で地域貢献に参加した生徒数	14人	30人	67人 (A)
②イングリッシュキャンプ参加者英語学習への動機付けができた		参加者の80%	参加者の100% (A)
③海外研修参加者が英語で自己表現ができた		参加者の80%	参加者の100% (A)
③オンライン交流でコミュニケーション力がついた		オンライン交流した生徒の60%	オンライン交流実施1回のみ (D)
③エンパワーメントプログラムでコミュニケーション力がついた		プログラム参加者の80%	プログラム参加者の97% (A)

- **多読、多聴プログラムの研究と実施** … 授業外で読んだり聴いたりして、自ら英語を学習するモチベーションを高めるプログラムを研究。昨年度は授業外で国際科3年で実施、今年度は授業の帯活動で行う。
- **公開国際理解講座** … はままつ国際理解教育ネットの協力のもと、本校生徒、県内の高校、地域の中学生、地域の外国人の方々が参加。多文化共生社会について考える1日の公開講座を開催。
- **エンパワーメントプログラム** … 海外の大学生がリーダーとなって実施する英語の表現力を付ける3日間のプログラムを12月に希望者30名の参加で実施。今年度は14名で12月に実施予定。

### 昨年度10月以降の取組例



10月 公開 研究授業・研究協議



11月 英語授業 | ICT活用研修



11月 TOEIC講座



12月 オンライン交流



12月 エンパワーメントプログラム



12月 公開 国際理解講座

### 今年度10月までの取組例



8月 日本語学校ボランティア



9月 異文化体験発表会



5、7、10月 英語科 校内研修会



10月 英検講座



10月 校内授業研究・授業検討会



10月 LINEを使ったオンライン交流

## 5 成果と今後の方向性

英語教育コアスクールの大きな柱である英語授業改善では、外部のアドバイザーの助言をいただきながら、英語科で取り組む体制ができてきた。ICTを効果的に活用する英語の授業も増えている。また、生徒が自ら英語を学習しようという動機づけという点で、イングリッシュキャンプ、海外研修、異文化理解発表会、英検講座、エンパワーメントプログラム、など多くの機会を設定でき、生徒の満足度も高かった。今後は、この取組を継続していくとともに、これらが生徒の自律的な学習に結び付き、さらに英語以外の分野にも好影響を及ぼすようにしていきたい。

<1 テーマ>

「大学入学テスト」と ICT 環境に対応した英語 4 技能の養成とグローバル人材の育成。

<2 取組方法>

○生徒の学力向上

- (1) ソフトを駆使した英検対策補講の実施
- (2) 異文化交流会の実施、海外研修の推奨
- (3) 実用英語技能検定の実施と面接練習
- (4) GTECの実施
- (5) Skypeを駆使した国際交流を実施するための環境整備
- (6) English Campの実施
- (7) 「放課後読書」の実施

○教員の指導力向上

- (8) 4 技能養成テキストの授業方法研修会の実施
- (9) 4 技能養成教育ソフトの授業での利用方法の研究
- (10) 次期学習指導要領に対応した先進高校の視察
- (11) 大学教授による授業参観と指導助言
- (12) 小中高等学校での英語授業参観交流
- (13) 授業改善のための外部講習会への参加
- (14) デジタルテキストやICT機器の利用研究

○高大接続改革

- (15) 「大学入学共通テスト」への対応の研究

<3 成果指標と実績>

成果指標	初期値	目標値	実績（評価）
①授業への取組 2年 1年	45.1% 40.6%	48% 44%	アンケートは11月実施予定
①平日学習時間 2年 1年	1.6h 1.8h	2.0h 2.2h	2.0h (A)
①休日学習時間 2年 1年	2.5h 2.6h	2.8h 3.0h	2.7h (B)
③授業で力がついた実感 2年 1年	4.2% 4.1%	5.5% 5.0%	5.3% (B)
①英検 2 級受検数	90 人	150 人	64人 10月 (B)
②海外研修参加数	1 人	5 人	1 人 10月 (B)
③イングリッシュキャンプ参加者数	0 人	30 人	30人 (A)
④英検 2 級合格数	30 人	35 人	5 人 10月 (B)
②GTEC4 技能検定 960~690	10% 30%	15% 30%	12月実施予定
③異文化交流会参加数	10 人	20 人	3 月実施予定
②ICT 利用の英語授業実施教員数	3 人	5 人	5 人 (A)
③ICT 授業で力がついた実感（生徒）	50%	60%	60% (A)

<4 特徴的な取組>

**教員の指導力向上**（文部科学省「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」の研究指定校）

敬愛大学の向後秀明教授の指導助言を受けて、同じ地区の富士宮市立富丘小学校、富士宮市立第四中学校と公開授業の参観や研修会を行い、授業改善を行っている。



## English Camp

英語部の生徒や希望する生徒が近隣のALTを招いてゲームや各テーマについて話し合うなど諸活動を通じて英語力の向上を図った。



## 放課後読書

辞書を使わずに易しい英語で書かれた本を多く読み、ストーリーを追いながら物語を楽しむことで、英語力を養成している。



## 米国サンタモニカ市の高校生徒との交流

富士宮市の姉妹都市である米国カリフォルニア州サンタモニカ市の高校生が来校し、生徒との意見交換やお茶の作法の紹介、浴衣を着る体験等を通して異文化交流を図った。



## <5 成果と今後の方向性>

日々の授業でデジタルテキストやICT器機を使用した授業は定着しており、学習効果にもつながっている。今後は使用教材を更に吟味し、より効果的な指導方法を研究する。

「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」の全国大会発表（三重県 11月8日、9日）に向けての準備をし、発表後も研修協力校である同地区の小中学校との研修会を通じて得たものを授業改善に活かす。

11月に滋賀県立米原高校を訪問し、4技能の効果的な活用法を研修し、指導法を共有する。

<1 テーマ>

Gotta Get Global, KAKENISHII!  
 ~Learn from the world around you~

<2 取組方法>

- ①【生徒の学力向上】
- 海外修学旅行（台湾）における現地大学生との班別活動を行う。
  - 「エンパワーメントプログラム」（校内イングリッシュキャンプ）を実施する。
  - 英語ディベート学習会を実施する。
  - Google for Education等を活用した海外の高校とのオンライン交流を行う。
  - 多読活動等を通じて生徒の英語運用能力及び学力を向上させる。
- ②【教員の指導力向上】
- 先進的な英語指導実践校への視察や、英語教員向け研修への参加により、英語担当教員の4技能5領域指導力を向上させる。
- ③【高大接続改革】
- 英語授業で海外のコースブック（OXFORD “*Q:Skills for Success*”）の活用により、大学入学共通テスト（英語）及び民間の資格・検定試験に対応する授業の実践について、更なる研究と実践を行う。

<3 成果指標と実績>

成果指標	初期値	目標値 30年度	実績（評価） 30年度
①授業への取組 2年 1年	28.0% 33.1%	30% 35%	25.2% (C) 35.9% (A)
①平日学習時間 2年 1年	100分 90分	105分 95分	119分 (A) 95分 (A)
①休日学習時間 2年 1年	149分 131分	155分 135分	136分 (B) 143分 (A)
③授業で力が ついた実感 2年 1年	8.4% 6.8%	10% 8%	3.3% (C) 4.1% (C)
①学校が指定する外部 検定試験の受験 者数	152人	160人	154人 (B)
②海外研修（修学旅 行は除く。）への 参加者数	17人	20人	27人 (A)
②イングリッシュキ ャンプへの参加者 数	30人	40人	29人 (B)
③学校が指定する外部 検定試験の合格 者数	70人	75人	89人 (A)
②校内海外研修報告 会への参加生徒数 （発表者+聴衆）	20人	30人	54人 (A)
③大学入学共通テス ト（外部検定試験） に対応した副教材 等の製作	なし	30%	30% (A)
③生徒が英語で言語 活動をしている1 単位時間内の平均 割合	53%	55%	61.5% (A)
③英語担当教員が英 語で発話をしてい る1単位時間内の 平均割合	54%	60%	58.3% (B)

<5 成果と今後の方向性>

上記の成果指標と平成30年度の実績を見ると、海外研修への参加者数、外部検定試験の合格者数、海外研修報告会への参加生徒数等は、目標値を上回りA評価となっている。これは英語や異文化への生徒の興味・関心が着実に高まってきていることを示していると考えられる。また、授業改善も進み、授業時の教員・生徒の英語の発話は6割前後であり、ほぼ目標値をクリアしている。しかしながら「授業で力がついた」実感を持つ生徒の割合は依然として低く、引き続き大きな課題である。授業で4技能5領域をバランスよく扱いながら、いかに生徒に「力がついた」という実感を持たせるか、特に評価の方法等について、今後、さらに研究を進めていきたい。

また、来年度からは修学旅行先が国内となるため、台湾研修に代わる新たな研修についても検討を進めていく必要がある。



< 4 特徴的な取組 >



**【コースブックを活用しての英語授業】**  
 コースブック“*Q:Skills for Success*”を使用し、実践的な英語力養成のための授業を展開している。

**【多読活動で英語運用力を養成】**  
 グローバルラウンジに生徒用の洋書を用意し、自由に読むことができるようになっている。



**【校内イングリッシュキャンプ『エンパワメントプログラム』 8月19日(月)～23日(金)】**  
 外国人学生をリーダーとする小グループで様々な活動やプロジェクトに取り組む中で、体験を通して多様な価値観や考え方を学び、積極性・主体性・チャレンジ精神を養うとともに、英語力・コミュニケーション能力の向上を目指す。



**【校内英語ディベート学習会】 9/14、9/28、10/12、10/19、11/4**  
 ディベートの基礎を学び、論理的思考力・客観的判断力を高めるとともに、英語力を伸ばし説得力のある話し方を身に着けるため、外部の指導者を招いて学習と練習に取り組んでいる。



**【海外研修等報告会】 10月15日(火)**  
 夏季休業中に海外研修や短期留学に参加した生徒が、異文化に触れて感じたことや体験を通じて得たこと等について、写真や動画を使って報告した。

**【英字新聞発行】**  
 英字新聞“KAKENISHI TIMES”を年一回発行しており、今年度、Volume3を発行することができた。記事はすべて生徒が書いている。

<p>&lt;1 テーマ&gt;</p> <p>グローバル社会における真のリーダーの育成を目指して</p>
<p>&lt;2 取組方法&gt;</p> <p>(1) 国際科のニュージーランド校外学修（1年生）とオクトーバープロジェクト（2年生）を推進し、異文化理解を深め語学力の向上を図る。                  (2) 外部講師を招請し、海外留学を目的としたトレーニング講座を実施する。また、イギリス研修(希望者)を実施する。                  (3) 大学教授による講座や異文化理解を深める講座等を実施する。                  (4) 外部教育機関主催の教員対象教科指導力向上研修に参加し、指導力の向上を目指す。</p>

<3 成果指標と実績>			
成果指標	初期値	目標値	実績（評価）
①授業への取組 2年 1年	34.0% 38.3%	36.0% 40.0%	35.8% 36.8% (B)
①平日学習時間 2年 1年	1.8h 1.7h	2.0h 2.0h	2.7h 1.7h (B)
①休日学習時間 2年 1年	3.3h 3.1h	3.8h 3.6h	3.8h 3.1h (B)
③授業で力が ついた実感 2年 1年	8.0% 10.5%	10.0% 12.0%	9.5% 13.2% (B)
①外部検定受験者数 (GTEC / TOEIC)	40人/ 80人	40人/ 80人	38人/78人 (B)
②海外研修参加者数	43人	45人	45人 (B)
②イングリッシュキャンプ参加者数	80人	80人	80人 (B)
③外部検定平均点 (GTEC / TOEIC)	593点 /491点	600点 /500点	524点 /475点 (C)
①外部検定受験者数	1.0h	1.2h	0.8h (C)
②外部検定受験者数	100%	100%	100% (B)
②外部検定受験者数	84人	86人	97人 (A)
③外部検定受験者数	3人	4人	4人 (B)

<4 特徴的な取組>

1 ニュージーランド校外学修(1年)、オクトーバープロジェクト(2年)



ニュージーランド事前研修 (1年)



広沢小学校（英語授業を担当 2年）



JICA（貿易ゲーム 2年）

異文化理解、国際理解  
コミュニケーション能力の育成



静岡文化芸術大学（民族音楽体験講座 2年）



伊勢神宮（日本文化・歴史に対する理解を深める 2年）

## 2 海外留学目的の講座(語学トレーニング講座)

### 世界で活躍できる力を!

8月22日(木)～23日(金)の2日間  
2人のバイリンガル、ネイティブ講師による講座を実施。



【PCの画像を英語のみで伝達】 【面接トレーニング(ケンブリッジ英検式)】 【4技能の確認テスト】

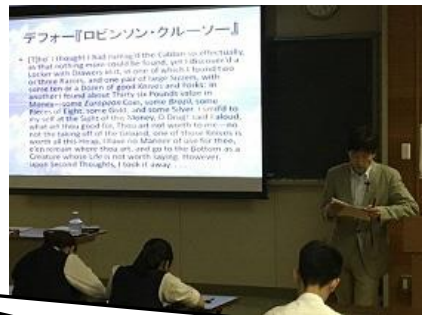
### 参加要件

- ① 1, 2年生対象
- ② 在学中あるいは卒業後に海外留学を希望している生徒
- ③ 英検2級取得もしくは同等の力のある人
- ④ Speaking及びWritingの力をつけたい人

## 3 異文化理解のための種々の講座

### パレスチナ問題を語る!

パレスチナ自治政府 フリード・シラム大使  
(「技芸を磨く実学の星事業」と連携)



英文学に関する講演会 東京大学大学院准教授 武田 将明 氏  
(「ロビンソン・クルーソーに魅せられて～300年の冒険～」)

### <5 成果と今後の方向性>

- (1) 1年生のニュージーランド校外学修に向けての事前学習、2年生のオクトーバープロジェクトの実施を通して、計画的に国際科の生徒の異文化理解を深め、コミュニケーション能力の向上を図ることができている。今後は、1年生の2～3月に1ヶ月間実施するニュージーランド校外学修の充実を目指して、事前学習をより一層工夫していく。
- (2) 海外留学目的の語学トレーニング講座(2日間)では、「満足した」という生徒が多い一方で、「もう少しレベルの高い講座を希望する」という生徒もいたので、来年度への課題としたい。しかし、これらをきっかけとして、海外に目を向けていく生徒が増えている。
- (3) 今年は、異文化理解に関する講座を充実して企画・実施しており、英文学に関する講演会は生徒の満足度も高かった。「イスラエル・パレスチナ問題」をテーマとした講演会は3回シリーズで計画しており、第2回目はパレスチナ自治政府の大使を招請して11月1日に実施する予定である。国際的な視野を養うと同時に、人権問題等について考える機会としたい。
- (4) 今後は、教員対象の教科指導力向上研修及び新学習指導要領に対応した研修等に積極的に参加させ、教員の指導力の向上を目指していきたい。また、3月に実施するイギリス研修では、異文化理解、語学力と表現力の向上に効果的につながるように、事前学習や事前指導を計画的に実施していく。

<p>&lt;1 テーマ&gt;</p> <p>「教育改革」に対応した本校における英語教育充実方策について</p>
<p>&lt;2 取組方法&gt;</p> <p><b>1 実施体制</b>                  学力向上研究委員会が主となって、本校の異文化理解・英語教育における課題を整理し、「教育改革」に対応した本校の方向性を提言する。</p> <p><b>2 生徒の学力向上への取組</b>                  (1) 英語科1年生サマーセミナーの拡充                  (2) エンパワーメントプログラムの導入                  (3) 英語科2年生海外語学研修の実施                  (4) 英国姉妹校との相互交流の充実                  (5) 生徒の英語4技能の向上                  (6) 異文化理解に関する教育活動の拡大                  ア 近隣の外国人学校（ムンド・デ・アレグリア）との交流機会増大                  イ 英語科2年生が雄踏小学校訪問</p> <p><b>3 教員の指導力向上</b>                  (1) 学力向上研究委員会や研修課を中心に公開授業を実施                  (2) 教員研修用外部サイトの導入                  (3) 外部講師を招いた校内研修会（AL）実施                  (4) 県内外の先進校視察や研修会参加</p>

<3 成果指標と実績>			
成果指標	初期値	目標値	実績（評価）
①授業への取組 2年 1年	31.7% 28.7%	35.0% 30.0%	31.5% 33.1% (B)
①平日学習時間 2年 1年	1.2H 1.0H	1.4H 1.2H	1.3H 1.2H (B)
①休日学習時間 2年 1年	1.8H 1.8H	2.0H 2.0H	2.2H 1.9H (B)
③授業で力がついた実感 2年 1年	8.3% 7.7%	10.0% 10.0%	9.0% 5.3% (C)
①GTEC 受検者数	720人	720人	720人 (A)
②英国姉妹校との相互交流参加生徒数 (合算)	37人	40人	39人 (A)
②サマーセミナー参加中学生数	50人	55人	45人 (B)
③英語科3年生英検2級以上合格	40人	40人	38人/39人 (B)
②英語科2年生徒による小学校での英語授業回数	0回	1回	1回 (A)
②外国人学校との交流回数	1回	2回	5回 (A)
③普通科2年生 GTEC 得点率	62.9%	65.0%以上	
②センター試験英語平均得点率	56.3%	60.0%以上	58.5% (B)

<4 特徴的な取組>

2-(1) サマーセミナー



静岡新聞 R1. 8. 11

2-(3) 海外語学研修（オーストラリア）



ホームステイしながら本校生徒向けに作成されたESLプログラムによる少人数授業を受けた。  
 (R1.7.21~8.11)

2-(4) 姉妹校との相互交流



英国姉妹校（ヘンドン校）生徒20人が本校訪問。生徒宅にホームステイしながら学校生活や日本の文化を体験した。10月24日(木)体育大会にはムンド・デ・アレグリア校の生徒も一緒に交流した。  
(R1.10.21~10.28)

静岡新聞 (R1.10.25)

2-(6) ア ムンド・デ・アレグリア校との交流



9月25日(水)1年英語科生徒が「異文化理解」の授業でムンド校を訪問。次回は11月6日(水)予定。

2-(6) イ 雄踏小学校訪問



Good Teachers! 静岡新聞 (R1.10.19)

< 5 成果と今後の方向性 >

1 生徒の学力向上への取組

順調に充実した活動が行われている。特に、英語科1年生のサマーセミナーにおいては、ネイティブ教員を中心にディベート学習を新たに導入した。英語科2年生の雄踏小学校訪問では普段の授業の中では学べないことを自ら創意工夫しながら身に付けることができた。英語科2年生の海外語学研修の事前・事後指導は「異文化理解」の授業を利用して系統的に行うことができた。ムンド・デ・アレグリア校との相互交流も「異文化理解」の授業を活用している。また、浜松市内初のエンパワーメントプログラムを12月24日(火)~26日(木)実施する予定である。

2 教員の指導力向上

「全教員がアクティブ・ラーニングの授業に取り組んでいる」ことを踏まえ、学力向上研究委員会や研修課が中心になってさらなる授業改善に取り組んでいる。学力向上研究委員会編集の「ALの部屋の窓」や教員研修用外部サイトを利用して自己研鑽を推奨している。また、12月3日(火)には外部講師(学校法人桐蔭学園理事長 満上慎一氏)を招いて校内研修会を実施するよう準備を進めている。研修の成果を発表・検証するために、他校(中学・高校)教員を対象に公開授業研究会を1月に実施する予定である。

3 成果の検証

「総合的な探究(学習)の時間」を利用して国際交流意識を育成し、生徒が考えた姉妹校生徒との交流をクラス(1年生)単位で実施した。その様子を学校評議員に参観していただき感想・意見等を伺うことができた。英語科の「異文化理解」の授業を起点として、普通科の異文化理解も系統的に進め、英語教育の拠点校として地域に貢献していきたい。